

2021年3月 星空案内



今月の星空

星空の暦



15～17日頃 宵のころに見える細い月の「傾き方」に注目

春の黄道（太陽の通り道）は、地平線に対して傾きが大きく垂直に近い方向にあるため、地平線の下に太陽は月の真下に近い位置にあります。そのため月は下側が光りまるで寝ているような姿になります。一方、秋の黄道は地平線に対して傾きが小さく真横に近い斜めの方向にあるため、地平線の下に太陽は月に対して右斜め下の位置にあります。そのため月は右側が照らされます。3月の月の様子を観察し、秋になったらまた月を観察して比較してみましょう。

春



秋



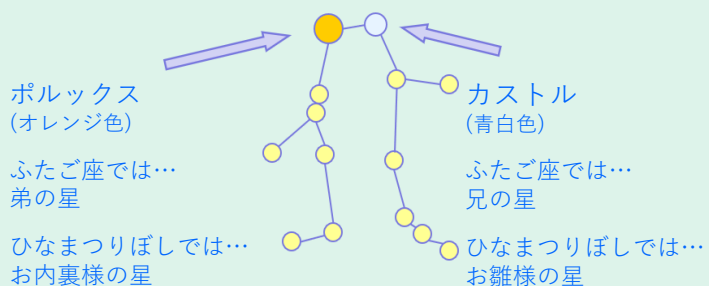
今月の星座

ぎょしゃ座

黄色に輝く1等星のカペラと、五角形の星の並びを持ち、空の高い位置に見られる星座です。ぎょしゃ(御者)とは馬車の馬を操る人を意味します。星座絵には子ヤギを抱きかかえた老人の姿でアテネの王様のエリクトニオスが描かれています。この王様は馬車を使った戦車を発明した功績で星座となりました。ヤギは、大神ゼウスがヤギの乳を飲んで育ったことから幸運の象徴として描かれています。カペラは雌ヤギという意味を持ち、ちょうど子ヤギの部分で輝いています。

ワンポイント！ ひなまつりの星

ふたご座は、明るく輝くカストルとポルックスの2つの星を、ギリシャ神話に登場する仲の良い双子の兄弟に見立てて作られました。日本では、桃の節句の頃にこの2つの明るい星をお雛様とお内裏様に見立てて「ひなまつりぼし」と呼んでいました。ひなまつりには夜空で寄り添ったお雛様の星とお内裏様の星を探してみてください。



おおぐま座

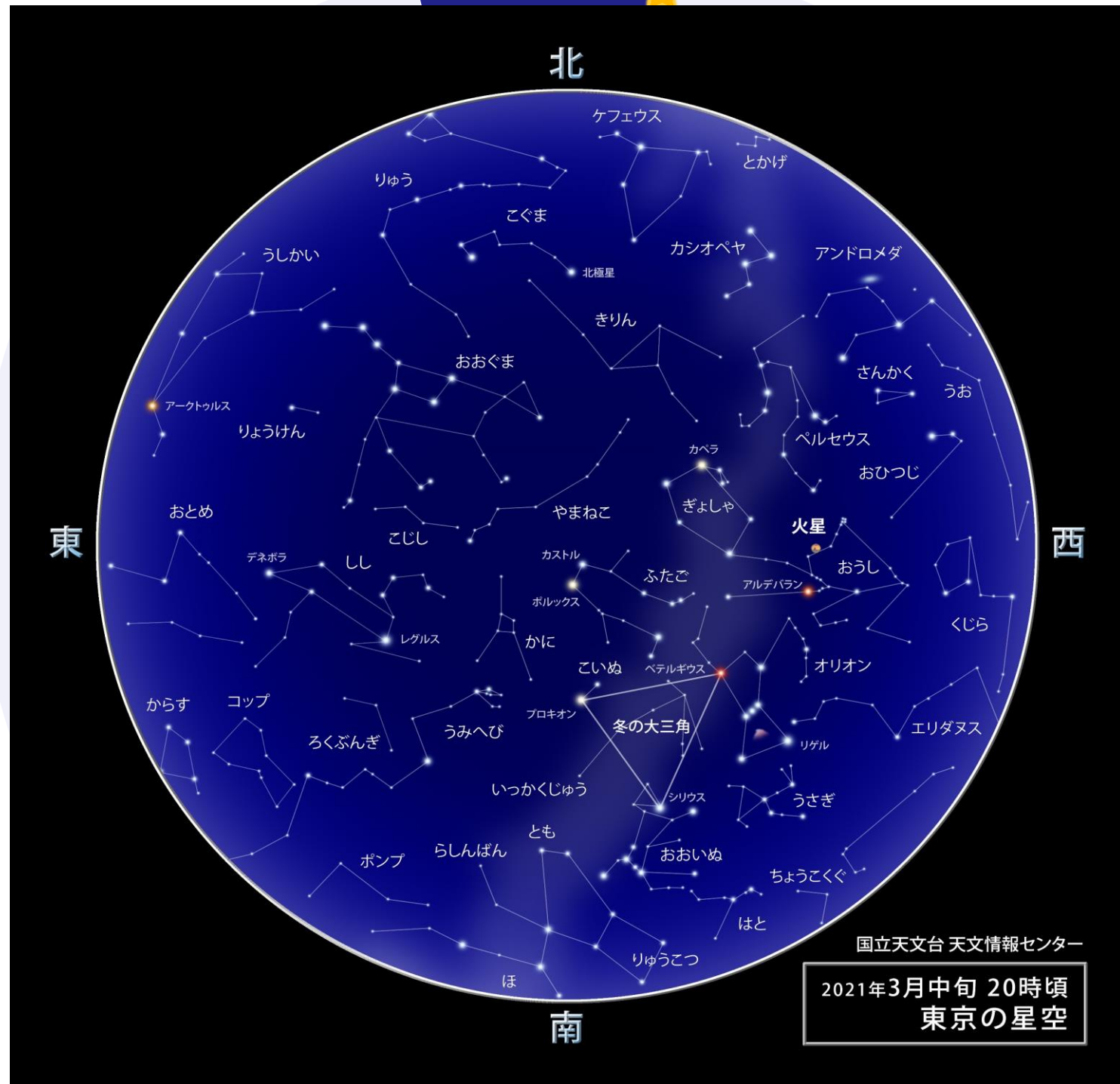
全天で3番目に大きな星座です。腰～しっぽの部分のひしゃく型の星の並びは「北斗七星」と呼ばれ、春の星座を探すための手がかりとなります。ギリシャ神話では、呪いで変身してしまった妖精カリストの姿であるとされています。今月中旬、20時頃に北の空を見上げると、天頂の方向に足を向けた姿を見ることができます。

こぐま座

しっぽの部分に北極星が位置する星座です。1年中見ることのできる星座ですが、春から夏にかけては空高くに上るため見つけやすくなります。こちらの子熊は、おおぐま座となったカリストの子供である狩人アルカスの姿であるとされています。

ワンポイント！ 北斗七星

北斗七星は、英語ではBig Dipper(大きなひしゃく)と呼ばれ、ドイツやイタリアなどでは馬車に見立てられています。図のように、ひしゃくの水を汲む部分の2つの星の間隔を5倍にのぼした辺りに、北極星を見つけることができます。アメリカのアラスカ州の州旗には、北極星と北斗七星が描かれています。



季節の小話



太陰太陽暦（いわゆる旧暦）にて用いられていた、季節やその移ろいを表すための言葉。現在でも、よく目にしますね。

お誕生日の星座

*** うお座 (2月19日～3月20日頃)**

2匹の魚が紐でつながれた姿で描かれています。うお座には、春分の日には太陽が位置する春分点があります。

*** おひつじ座 (3月21日～4月19日頃)**

おひつじ座で最も明るい星のハマルには、羊の頭という意味があります。おひつじ座は黄道12星座の最初の星座になっています。

二十四節気

啓蟄 (5日頃)

蟄虫啓戸という言葉に由来し、暖かくなり地中で冬ごもりをしていた虫が、地上にはい出てくる頃とされます。この頃に鳴る初雷は、虫を起こす「虫出しの雷」と呼ばれます。

春分 (20日頃)

太陽が、黄道と天の赤道の交点である春分点を通る日を指します。昼と夜の長さが等しくなり、この日以降は昼の時間の方が長くなっていきます。